

～夕張の破綻と市民の自立～



石炭は、大正から昭和の中頃まで一次エネルギー供給として大いに重宝され、夕張を含む北海道炭鉱は全国の半分近くの出炭率でした。

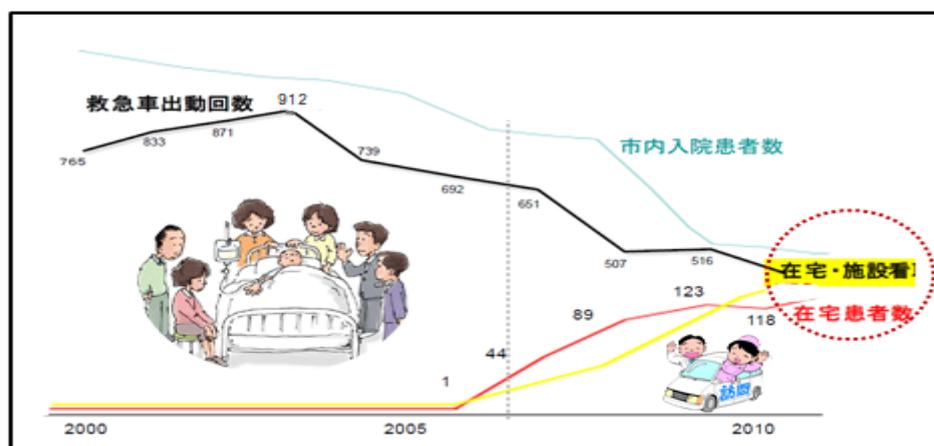
しかし、昭和 35 年（'60）には石油需要に追い越され、しかも度重なる事故により衰退の一途を辿ります。そこで、夕張は昭 55 年（'80）に「炭鉱から観光へ」と舵をきりますが、それが更なる累積赤字を生みます。そして、人口も 1 万人と半世紀で 10 分の 1 に減少します。そして、遂に 1 人あたり 600 万円の負債額を抱え、平 19 年（'07）財成破綻に陥ります。現在、高齢化率は全国平均 25.1% に対し 43% とダントツに高く、日本の 35 年後の 40% を超えています。今、まさに夕張は将来の日本の縮図なのです。

財政再建のため夕張市は市職員数を半分にし、小学 7 校と中学 3 校を各 1 校に統合します。そして、福祉面で特養 110 床は存続しますが、唯一 171 床の市立病院を廃止し 19 床の診療所と 50 床の老健に縮小します。しかし、これは介護定員と病床数を加えた 1 万人当り施設数率では、夕張：全国平均＝169：175 とさほどの差は無い点も注目すべきです。今までの病床過剰であったと・・・。

病院撤廃後、所要時間 1 時間かかる札幌までの救急車は利用しなくなります。その代り介護施設の看取りは 100% となり、訪問診療を開設し 100 件を整えました（図）。その結果、医療費は一人当たり 10 万円/年の減になります。そして、心臓病・がん・肺炎の死亡が減少し、大往生の老衰死が増えました。

夕張の市民はたとえ癌になっても入院しなくなり、24 時間訪問看護を利用し、口腔ケアや肺炎ワクチン接種など予防に専念します。そして、住民は競って健康管理を実施するようになりました。さらに、「安心して徘徊できる街」を目指して情報伝達や搜索訓練などネットワークに勉め、雪かきや運動会、演芸会などで絆を深めます。病院が縮小されても、在宅診療の充実を計れば、自宅や有料老人ホームやグループホームなどを利用して、家族に看守られて穏やかに終末を迎えられます。こうした、超高齢社会を先取りした夕張が日本のモデルとなると見られています。

夕張市における財成破綻後の医療体制の変化



2015.12 理事長